

里子の根と恨

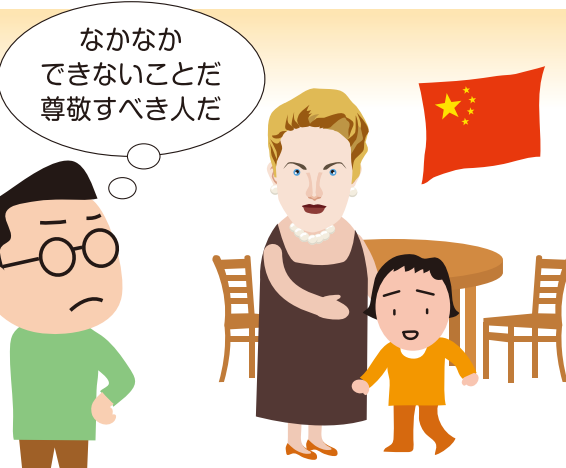
数年前、中国の田舎に帰って偶然に

あったことである。朝、ホテルの食堂で朝食を食べている最中、隣のテーブルにアジア系の足が不自由な女の子と金髪の中年の女性が目に入った。この二人は、どういふ関係かと疑問に思っていた時、十歳前後の女の子は、流暢な英語で西洋風の女性をお母さんと呼び、食べた料理を取ってくれるよう頼んだ。この二人はやはりアメリカの里親と中国の里子の関係だと確信した。多分、この女の子が何かのきっかけでアメリカ人に養子として認められ、今回帰省の為、故郷に帰ってきたのだろう。

最近ネットで在米の中国人の里子の記事を読み、その数は17万人と知り、本当にショックを受けた。今かなりの人は、成人している。彼らは、周りの人と

違う自分の顔立ちから、自然に、生まれた故郷が中国であることを知り、多くの人は、自分の「根」を探る為中国に戻り、生活したがっている。しかし、大部分の人は慣れない環境の生活を続けられず、失望してアメリカに帰った。これは里子の「恨」である。

十年前、中国の杭州市のある病院で、重い病気を患った生後間もない女の子が拾われて来た。偶然に杭州に旅行に来たアメリカ夫婦がこのことを知り、この重病の嬰兒を認知することに



した。アメリカに連れて帰った後、大金を使い大手術を施され、彼女は死を逃れた。十年後、彼女はアメリカの里親に生まれ親に会いたいと求めた。里親は彼女を連れ、杭州にやってきた。彼らは新聞に子供の生み親を探す広告を出し、中秋の名月の日に杭州の有名な観光地西湖の「断桥」という場所で会うことを呼びかけた。残念なことにその日に子供の生みの親は現われなかった。沢山のアメリカのお土産と感謝を表す中国語を用意してきた女の子は、涙を飲んでアメリカに帰った。現地の新聞がこの記事を載せ、大勢の中国人の読者を感動させた。

アメリカは強い経済力・軍事力・科学技術力を持つ国という固い半面、沢山の慈悲心を持つアメリカ人は、中国の親が一人っ子政策の為、或いは重病のため捨てた子供を受け入れ、大きく育てたという非常にソフトな半面もあることを認めなければならない。

この国と国民は本当に尊敬すべきだと思う。